

平成21年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	人権啓発事業				開始年度	—	
基本目標	同和教育の推進				終了年度	—	
担当課(局)	政策推進課	担当係	総合政策係	記入者	橋本 由香	評価者	森 弘道
20年度決算	133	千円	21年度予算	121	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
20年度人件費	1,078 千円		21年度人件費	1,092 千円		事業従事者数	0.15 人 0.15 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	町民の人権同和問題への関心を高め、人権尊重意識の普及高揚を図る
事業の内容	人権擁護の日(街頭啓発)、人権啓発強調月間(夏休みふれあい映画祭、懸垂幕)、人権週間(街頭啓発、懸垂幕掲示)、パネル展(いきいきふれあいリレー展、小学生人権啓発ポスター展)、高鍋城灯籠まつり物産展(人権啓発コーナー)

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 街頭啓発物品配布数	啓発物品を配ることで、人権について考える機会が増加する。
	2 映画祭来場者数	特に児童を中心に、わかりやすく人権について考える機会となる。
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 啓発活動	街頭啓発活動を2回行い啓発物品を配布。町広報紙に啓発記事の掲載をした。
	2 映画祭	チラシを小学校に配布し広報した。当日は啓発物品を配り、アンケートを実施した。
	3 灯籠まつり出店	人権啓発コーナーを設置し、パネル展・ビデオ上映。約300人に啓発物品を配布。

◎達成状況

指標名		単位	19年度	20年度	21年度	
成果指標	街頭啓発物品配布数	目標値	300	300	400	
		実績値	300	300		
		達成率	100.0%	100.0%		
	映画祭来場者数	目標値	人	200	150	150
		実績値		120	105	
		達成率	%	60.0%	70.0%	
	0		#DIV/0!	#DIV/0!		
活動指標	啓発活動	目標値	回	2	2	2
		実績値		2	2	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	映画祭	目標値	回	1	1	1
		実績値		1	1	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	灯籠まつり出店	目標値	回	1	1	1
		実績値		1	1	
		達成率	%	100.0%	100.0%	

◎事務事業の評価

妥当性(必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	人権は誰からも侵されることのない基本的な権利である。関係課・機関と連携を取りながら、広く町民の人権意識の高揚を図るため、また、住民福祉の観点から町が実施すべき事業である。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	人権問題については行政の取り組みと共に、町民一人ひとりが地域・家庭・職場などで自分自身の問題として考えていくことが不可欠である。人権問題は難しい・関係ないと感じる人が多いと思われるが、啓発活動で人権について考える機会をつくり、一人ひとりの人権意識を高めることは有効な手段である。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	街頭啓発に関する物品については法務局から支給され、映画祭についても、人権啓発推進協議会が準備を行うため、コストは低い。
協働性	◎町民との協働の可能性があるか(ボランティア・NPO等)	法務局が民間の方に委嘱する人権擁護委員と協力して啓発に取り組んでいる。

事務事業名	人権啓発事業	担当課(局)	政策推進課
-------	--------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	テレビ・新聞等で高齢者や幼児虐待などが連日のように報道される荒んだ社会状況だが、少しでも相手を思いやれる人に優しいまちづくりを進めていくためには、行政が啓発の機会を提供したり、普及活動を行っていくしかない考える。	今後の方向性				
			事業の方向性	拡充			
			現状維持			○	
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎積極的な推進が必要な事業である。折に触れた啓発をしていくべきと考える。
	コスト	現状維持	